

「青年海外協力隊」

田村  
阿弥

TAMURA  
Aya

日本人にしか  
できないことがしたい

「キャンパスで私を見かけると、センサーと声を掛けてくれるんです。知っている顔が増えるのは嬉しいですね」。そう語るのは、青年海外協力隊の田村阿弥さんだ。ボランティア活動が盛んなカトリック系の高校に通っていた田村さんにとって、海外や奉仕活動は特別なものではなかった。国内で英語教師として勤務したり、1年間イギリスで福祉ボランティアも経験した田村さん。やりがいのある仕事ではあったが、次第に「日本人にしかできない活動がしたい」という気持ちが抑

# JICA Volunteer Story

PROFILE

大学卒業後、英語教師として中学・高校勤務。山口市の地域ボランティア教室で日本語を指導。2013年10月から青年海外協力隊(日本語教育)としてジャマイカで活動中。

## 「日本語の授業を通じ主体的に学ぶ力を育てたい」

ジャマイカの重要な教育拠点の一つである西インド諸島大学。79人の学生が日本語を学ぶこの大学で、田村阿弥さんは、日本語で日本語を教えることにこだわりながら、学生の主体性を引き出す授業を展開している。



えられなくなった。一念発起して青年海外協力隊に応募し、2013年10月、晴れて日本語教師としてジャマイカの地に降り立った。赴任したのは、西インド諸島大学の人文教育学部現代言語・文学科。担当業務は、日本語コースの運営に加え、部活動の監督からイベント運営まで多岐にわたる。さらに、テストの時期ともなれば、毎日の授業の準備と並行して試験問題の作成などもこなす忙しさ。かつて日本で英語教師として身に付けた成績処理などのノウハウが今の活動の助けになっている。

### 独自の指導法で伸ばす 学び合いの姿勢

田村さんは、授業の際、説明に日本語を用いる「直説法」で教えることを心掛けている。教師と学生、双方にとって母国語ではない英語を使用すると、思わぬ誤解が生じる可能性があるからだ。しかし、英訳を求める学生も多く、日本語だけで教えることは簡単ではない。そのため田村さんは、絵カードなどを活用し生徒の理解を手助けし、学生がどうしても英訳を望む場合も直接教えるのではなく、まずは学生同士で問題を解決するように促している。

互いに教え合い学ぶこと。それは、日本語の授業を通して田村さんが学生たちに身に付けてほしい力の一つだ。ジャマイカでは、教師が一方的に講義する形の授業が多く、学生たちはペアやグループになって学習することに慣れていない。そのため、学生同士で会話の練習をさせようとすると、多くの学生が不安そうな様子を見せる。また、周りに聞けば分かることも、すぐに挙手して教師に確認し、授業の流れが中断される場面も少なくない。そんな彼らの目に、田村さんの教授法や学習スタイルはさぞ新鮮に映るに違いない。「日



a.グループでカードを使ってひらがなを学ぶ学生たち  
b.授業で使用する聞き取り練習用の音声は、田村さん自ら録音・編集をすることもある  
c.位置を表す表現を学んだ学生たち。右、左と言いながらにぎやかに福笑いを体験  
d.初級コースの最後の授業。ほとんどの学生が次のレベルに進んで現在も学習を続けている

本語の授業を通じて文化や学習スタイルの違いも学んでほしい」という田村さんの言葉に、初めは戸惑っていた学生たちも、1年次はペア学習、2年次はグループ学習と、共同学習の経験を重ねるにつれ、次第に活発に意見を出し合い学ぶようになってきた。問題が発生した時も、ジャマイカ人特有の面倒見の良さを発揮して互いに教え合う姿も見られるようになってきた。「外国語学習を通じていろいろな授業の在り方に触れ、学び方を学べるのは、言語そのものを学ぶことよりも意味がある」。田村さんのそんな思いを受け取り、今では、学生たちは授業以外の時間を活用して自主的に日本語コースのプロモーショナルビデオを作るまでに成長した。「最初はぎこちなく見えた日本式のお辞儀もだんだんと板についてきた」と、学生たちの日々の成長を田村さんは微笑ましく見守っている。赴任して17カ月。教えた学生の数も190人を超える。もともと、必ずしもすべての学生が日本語コースを修了できるわけではない。経済的な事情から授業料が払えず、受講を断念せざるを得ない学生も少なくないためだ。「目の前の学生たちを通して、貧困や失業率の高さなど、国が抱える問題を見せつけられる。この国では、勉強したい時にそれが許されるのは当たり前ではない」と田村さん。それでも、大学側は遅刻や欠席を厳しく指導しているため、田村さんも時には苦しい決断をしなければならぬ。赴任して初めて担当した学生が、今年最高学年に進学する。一人でも多くの学生を最後まで修了させることが、今の田村さんの願いだ。

「言語の学習を通じて文化の違いに気づき、少しずつ変化していく学生たちの姿を間近で見られることが、この仕事の醍醐味ですね」。田村さんは、日本語を教えるながら、同時に、受け身だった学生の主体性を引き出し、互いに学び合う力を育てているのかもしれない。



授業時間外に自主的に質問に来る学生に指導する田村さん